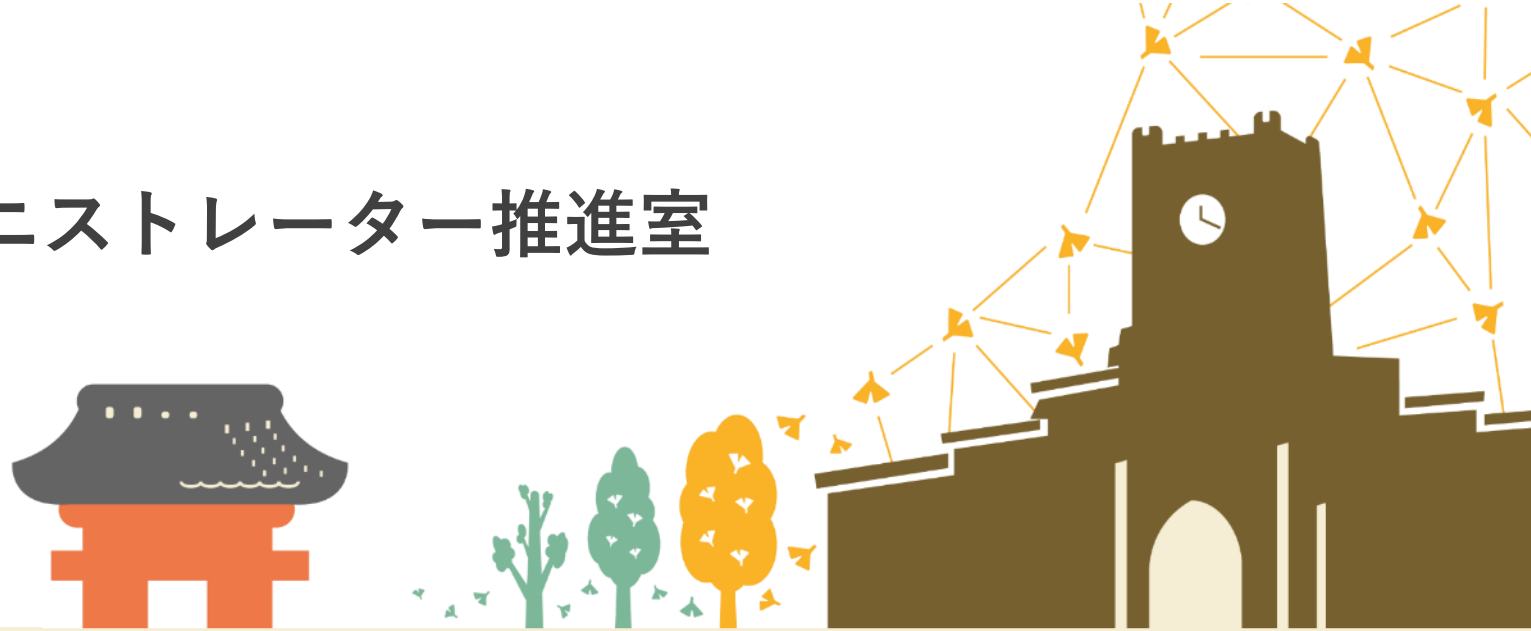
The University of Tokyo
Research Administrators

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学URAネットワークの伸展

東京大学リサーチ・アドミニストレーター推進室
古宇田　光



2023/2/27
東京大学URAネットワークシンポジウム

目次

1．自己紹介

2．東京大学のURA制度

3．東京大学の認定URA

4．東京大学URAネットワークの伸展

自己紹介

企業

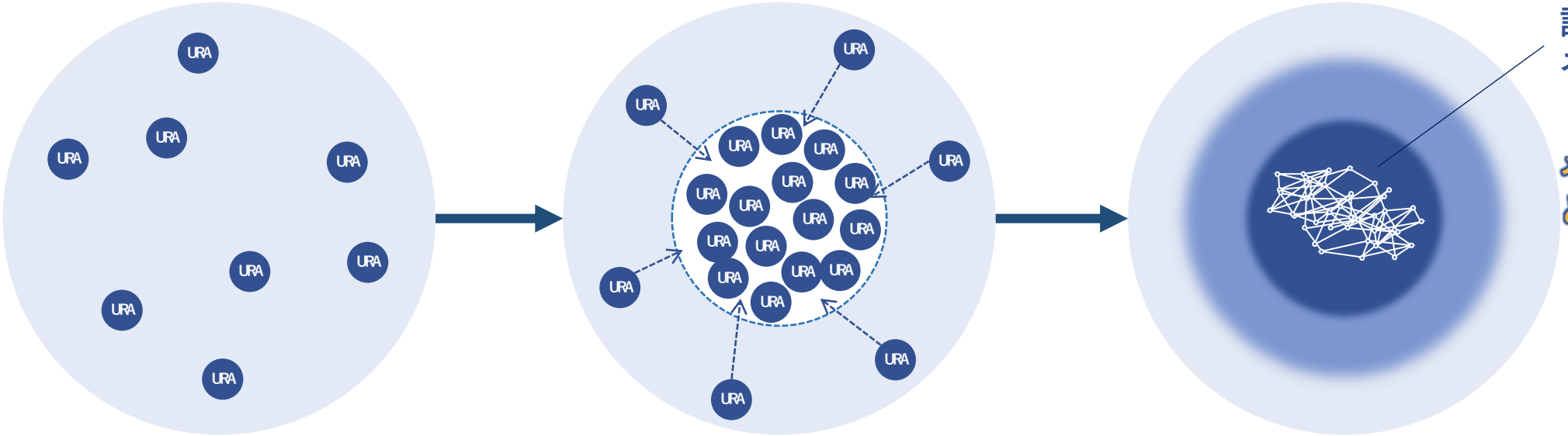
研究者（11年）
プロジェクトマネージャー（11年）

東京大学

物性研究所 プロジェクトマネージャー（8年）
リサーチ・アドミニストレーター推進室/物性研究所（5年）

東京大学シニアURA（2016年度認定）
東京大学プリンシパルURA（2020年度認定）

本日のお話（全体像）



認定URA
ネットワーク
（2023.1時点65名）

そのネットワークを
どういかすか？

部局への先行配置 → 認定によるURAの量的・質的確保＆ネットワーク化 → 認定URAのネットワークの先へ

2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027

URA認定数
のべ103

大学の基本方針におけるURAの位置づけ
―UTokyo Compassから―

基本理念	3つの視点 (PERSPECTIVES)
対話から創造へ	PERSPECTIVE 1 知をきわめる
多様性と包摂性	PERSPECTIVE 2 人をはぐくむ
世界の誰もが 来たくなる大学	PERSPECTIVE 3 場をつくる

目標１－２【多様な学術の振興】長い時間の経過の中で引き継がれた学術の一層の発展を推進するとともに、研究者の自由な発想に基づく新しい研究の芽を育成する。そのために、学術及びそれを担う研究者の多様性を支える基盤の強化、人文・社会科学研究のさらなる振興、成果の共有・活用促進により認知度の向上を図る。

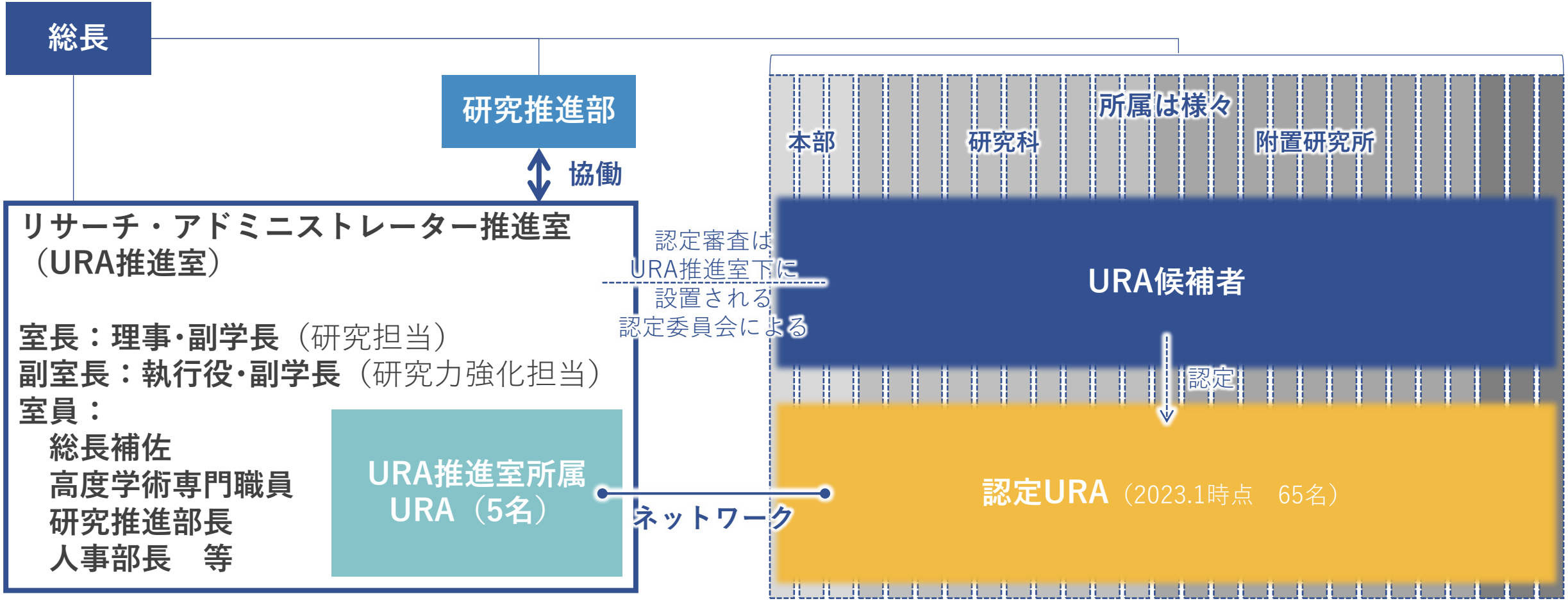
計画１ 研究基盤の強化

目標３－２【教育研究活動の支援】教育研究活動に専念できる環境を整えるため、デジタル技術の活用や教職協働を促進するとともに、研究支援部門を充実させ、東京大学の組織能力を高める。専門性や高度な知識を有する学生が東京大学のさまざまな活動へ参画するオンキャンパスジョブを拡充する。さらに、機能を拡張する大学にふさわしい組織機構を備え、より効果的に教育、研究、価値創造活動が展開できるようにする。

計画１ 研究に専念できる環境の整備

3つの視点が好循環を生み出すために…
自律的で創造的な大学活動のための経営力の確立

東京大学のURA制度：全体像



東京大学のURA制度：実施方針（平成28年9月役員会議決）

（URAの定義）

第1条　本学において、URAとは、**総合大学である本学の学術研究に係る諸活動を幅広く推進**し、学術研究を安定的かつ継続的に進展させることを目的として、**高度な専門性**を持って、次の各号に定める業務を**主体的に行う能力**を有する者である。

①　本学の学術研究に関わる調査・分析並びに企画立案業務
②　研究資金獲得に向けた調査、企画立案、内外折衝、申請等の業務
③　研究資金獲得後の研究に関わる管理運営、評価、内外折衝、報告等の業務
④　その他前各号の業務に関連する業務

（URAの認定・研修）

第2条　前条の定義のもと、適正な審査を行い、その能力に応じて**本学のURAとして認定**を行う。また、本学として優れたURAを育成・確保するため、**研修制度**を整える。

（URAの雇用環境）

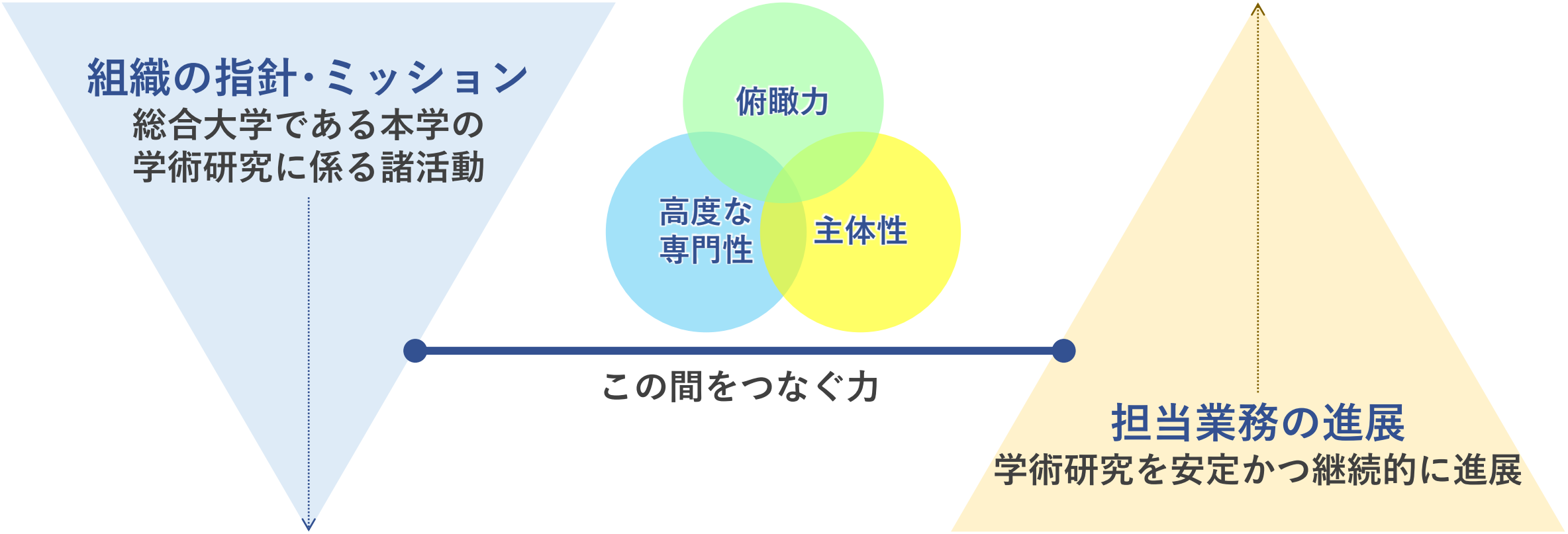
第3条　本学の研究力強化に資する高度な専門的知識・経験等を有するURAが安定的かつ継続的に活動できるよう、**高度専門職人材に係る雇用制度**を確立する。

（URA制度の運用体制）

第4条　**本学における研究へのURAの効果的な参画に向けて本部と部局が連携**し、戦略的・計画的なURAの活用に向けた組織体制を構築する。

東京大学のURA制度：URAの定義と求められる力

本学において、URAとは、**総合大学である本学の学術研究に係る諸活動を幅広く推進**し、**学術研究を安定的かつ継続的に進展**させることを目的として、高度な専門性を持って、次の各号に定める業務を主体的に行う能力を有する者である。



東京大学のURA制度：3つの認定区分とキャリアパス

前条の定義のもと、適正な審査を行い、その能力に応じて**本学のURAとして認定**を行う。また、本学として優れたURAを育成・確保するため、**研修制度**を整える。／本学の研究力強化に資する高度な専門的知識・経験等を有するURAが安定的かつ継続的に活動できるよう、**高度専門職人材に係る雇用制度**を確立する。

URA研修の受講 →

東京大学URA（のべ74名認定）

URA業務経験：学内外を問わず3年以上
実務的な知識、応用力

東京大学シニアURA（のべ25名認定）

URA業務経験：認定されたURAとして5年以上
（または学内外を問わず8年以上）
広範な知識、経験に基づく高度な判断･対応能力

東京大学プリンシパルURA（のべ4名認定）

シニアURAの中でも特に優れた知識、経験、
及び専門性に基づく極めて高度な判断･対応能力
リーダーシップを発揮し、中核的役割を担う能力

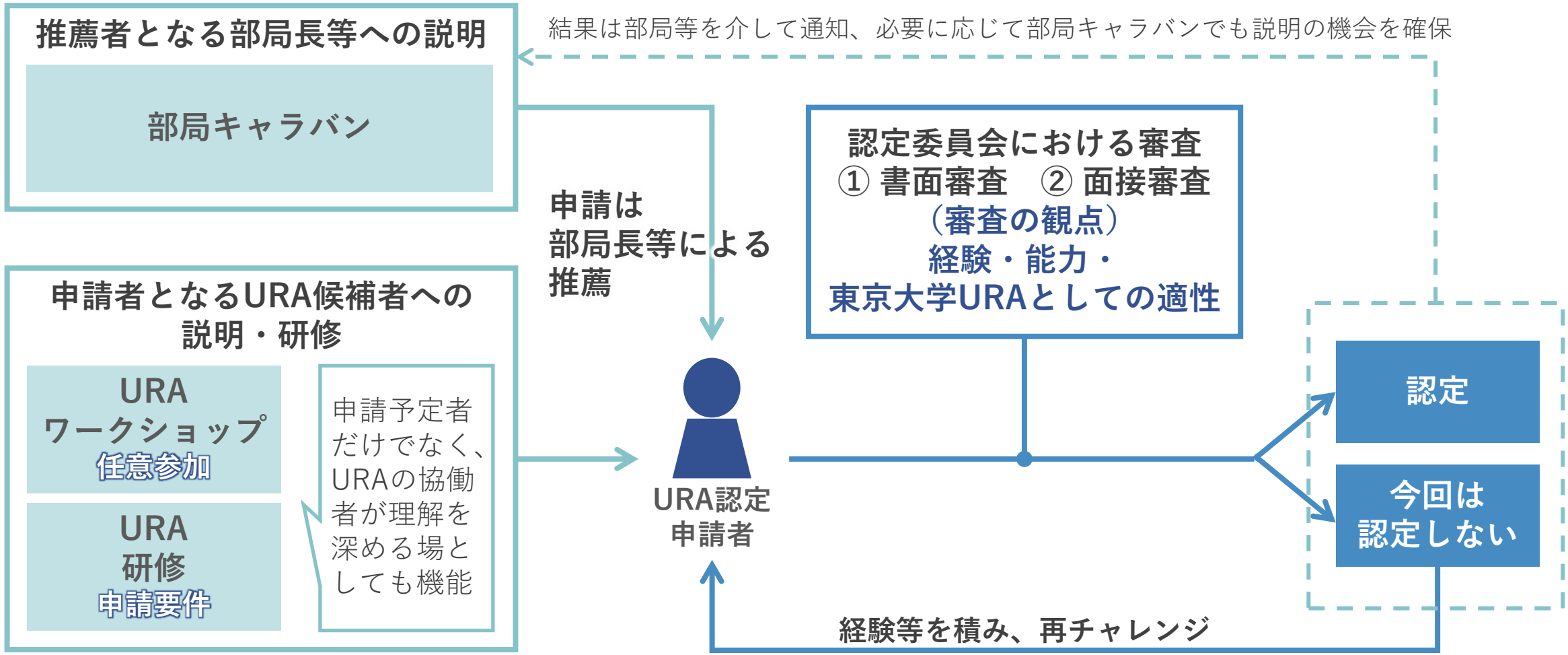
一部を対象に選考採用を実施

- **本部所属職員として年俸制無期雇用**
- **エフォート管理により部局業務にも参画**

→ **高度学術専門職員**

→ **高度学術専門員**

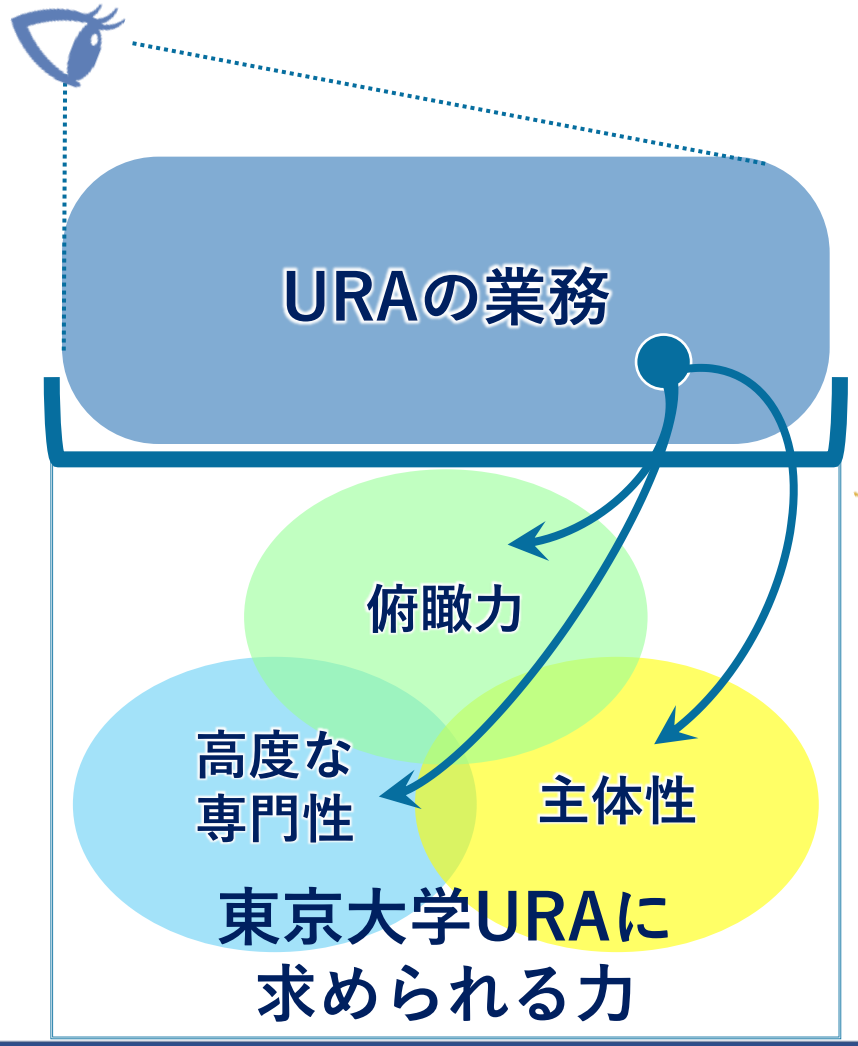
東京大学のURA制度：認定審査



東京大学のURA制度：研修＆ワークショップ

URA研修

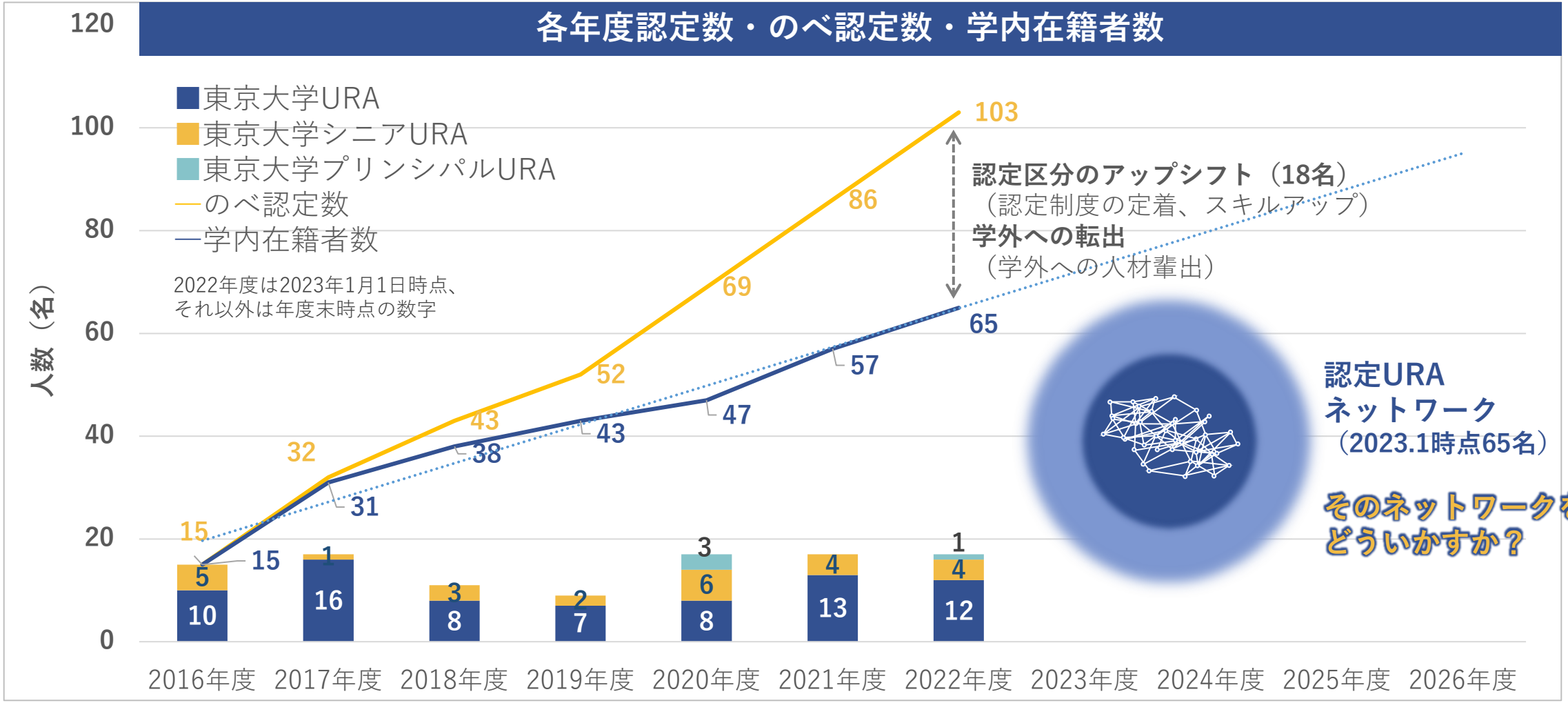
- 必修編の受講はURA認定申請の要件
- URA業務の基礎から実践まで幅広く学ぶ場
- 業務内容についての知識を得ることに主眼



URAワークショップ

- 任意参加
- 東京大学URAに求められる力について理解を深める
- URAとしての視点や、業務への向き合い方を考える

東京大学の認定URA：認定数の推移



東京大学の認定URA：多様な職名・所属

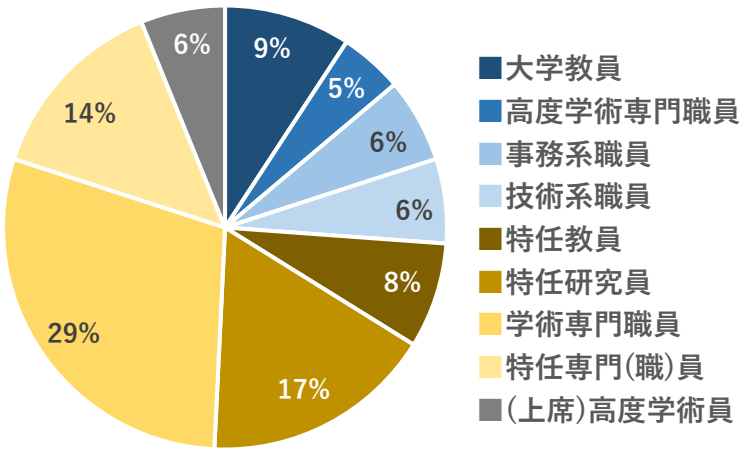
■プリンシパルURA（4名）、■シニアURA（17名）、■URA（44名）

本部業務を行う室等	リサーチ・アドミニストレーター推進室	■*■*■*■■
	産学協創推進本部	■■■
本部事務組織		■
研究科	法学政治学研究科	■
	医学系研究科	■■■■
	医学部附属病院	■
	工学系研究科	■■■■■
	理学系研究科	■*■■■
	農学生命科学研究科	■■
	経済学研究科	■
	総合文化研究科	■
	数理科学研究科	■
	新領域創成科学研究科	■■■■■
	公共政策連携研究部・公共政策学教育部	■

附置研究所	医科学研究所	■■■
	地震研究所	■■
	東洋文化研究所	■
	社会科学研究所	■■
	生産技術研究所	■■■■■■■
	史料編纂所	■■
	定量生命科学研究所	■■■
	宇宙線研究所	■■
	物性研究所	■*■*
	大気海洋研究所	■
	先端科学技術研究センター	■■■
学内共同教育研究施設	大学総合教育研究センター	■
学際融合研究施設	未来ビジョン研究センター	■■■
連携研究機構	高齢社会総合研究機構	■

プリンシパルURA 3名■*はエフォート管理で本部・部局の双方に参画

認定URAの職名分布



博士号取得者29名

東京大学の認定URA：多様な業務

■研究者・組織両面からの伴走■

- 物性科学分野の専門的知見を活かしながら、組織単位のプロジェクトを基軸に、プレアワードからポストアワードまで伴走支援。
- 研究所の国際連携制度の設立や、学内連携体制（連携研究機構）の構築に貢献。

（物性研究所･鈴木プリンシパルURA）

■国際連携体制の構築■

- 研究所の研究推進部門 部門長として、研究推進やマネジメント体制の戦略立案および基盤を構築。
- 研究活動のさらなる国際化に向けて、カロリンスカ研究所との国際共同ラボ2か所の設置に貢献。

（定量生命科学研究所･中川シニアURA）

■研究業績の収集体制の構築、学内への波及■

- 研究者やその支援者にとって使い勝手のよいシステムを目指し、「研究者情報管理システム」導入･「教員評価システム」構築により業務の効率化を実現、平成29年度業務改革総長賞受賞。

（工学系研究科・湯越シニアURA）

- 研究科への「研究者情報管理システム」導入を主導し、博士課程学生の研究業績をはじめ、研究科のさまざまな活動実績のデータベース化を開始。各種調査･評価への対応の負担軽減や意思決定支援の仕組みを構築。

（新領域創成科学研究科・池田シニアURA）

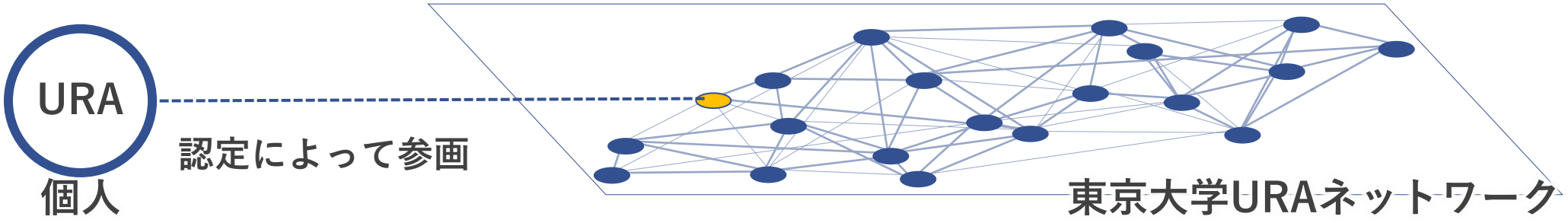
- 臨床研究中核病院としての対応をはじめ、分野の特性に応じた業績収集について「研究者情報管理システム」をカスタマイズして導入するとともに、マニュアル・スキームを整備。研究者個人による業績管理と、組織のIR活動・調査対応の両面での環境改善に貢献。

（医学部附属病院・一橋URA）

東京大学の認定URA：ネットワーク構築

認定によってネットワークに参画
ただ、それだけでは何も起こらない
“ほかのメンバーはどんな人？”
“業務上の課題、相談しても大丈夫？”

情報共有・スキルアップの「場」を
相互理解の「場」として活用
ネットワークの信頼感醸成
URA推進室のURAがハブとして機能



情報交換による課題解決/スキルアップ

URA連絡会議
URA勉強会
メーリングリスト
Teams 等

情報共有から協働へ

協働による業務の質向上/スキルアップ

URA研修、URAワークショップ
有志の議論（共共拠点、業績収集、研究データマネジメント…）
RA協議会等での発表 等

東京大学の認定URA：URAの協働から全学へ

専門知/実践知のつながり：研究IR

- 文献情報データベースの使い方や個人が行った分析の事例紹介、情報共有
- 情報・ノウハウ共有は全学・全部局共通の課題

→ 現場での取組みを全学IRへつなぐ体制へ

研究所間のつながり：ふちけんワーキング

- 附置研究所（特に共同利用・共同研究拠点）所属のURA間のゆるい連携
- 附置研究所特有の課題や運営における情報共有

→ URAで蓄積した知の全学への還元へ

現場と全学施策のつながり：研究データ管理

- 多様な分野のURA連携によるデータ共創
- 全学とURAの検討の場の連携による、研究現場を把握しながらの施策検討

→ 実効性のある全学方針の立案・策定へ

研究推進人材のつながりの基盤：URA研修

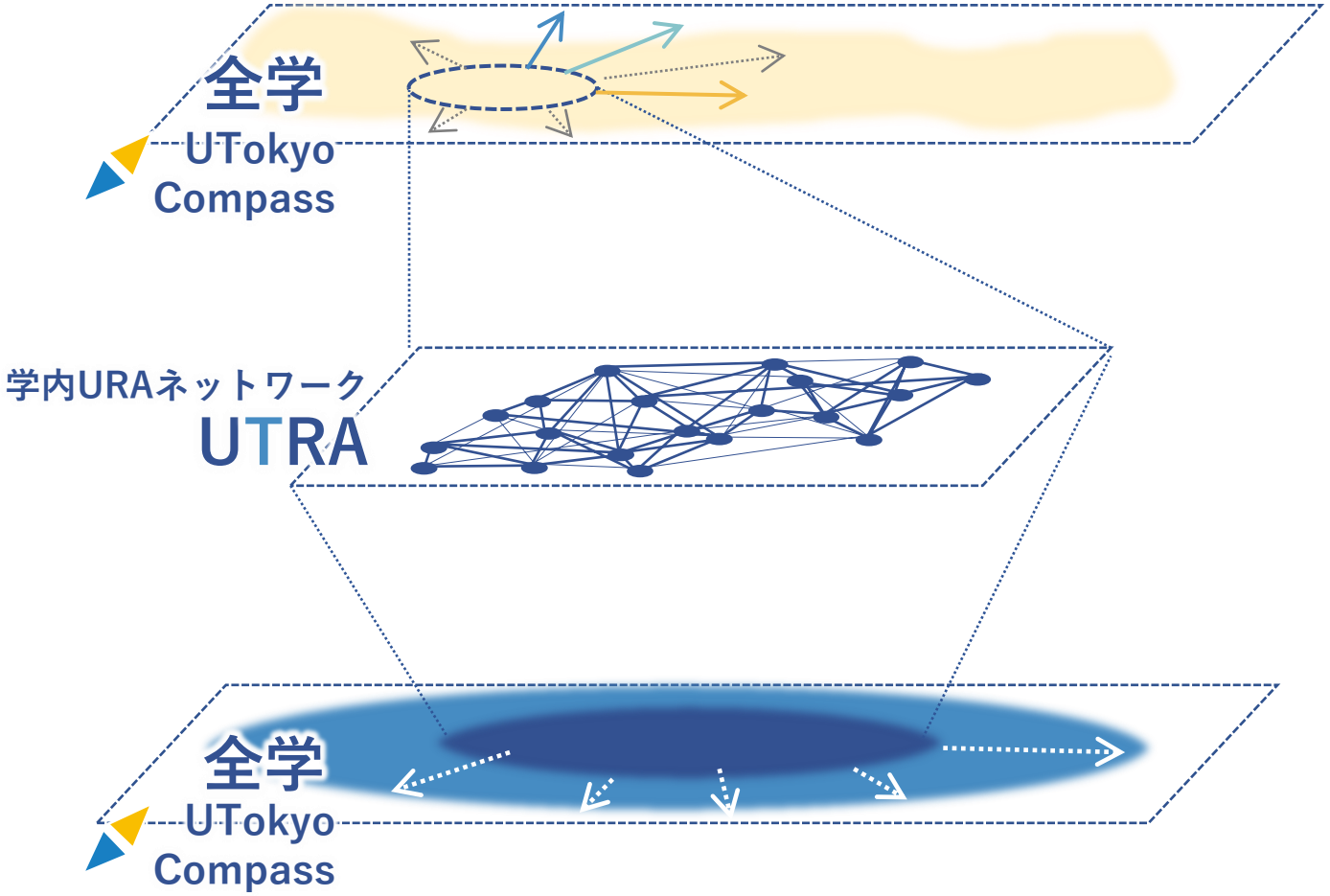
- 講師及びファシリテーターは認定URA

→ 専門性をさらに高度化

- UTokyo Compassを題材にしたワークの実施

→ 所属部局の視点から全学の視点へ

東京大学URAネットワークの伸展：2つの方向性



① URA連携による 全学研究力強化への伸展

（トップダウン-ボトムアップの連携強化）

- 本部-部局連携による戦略的・計画的なURA活用に向けた体制の構築

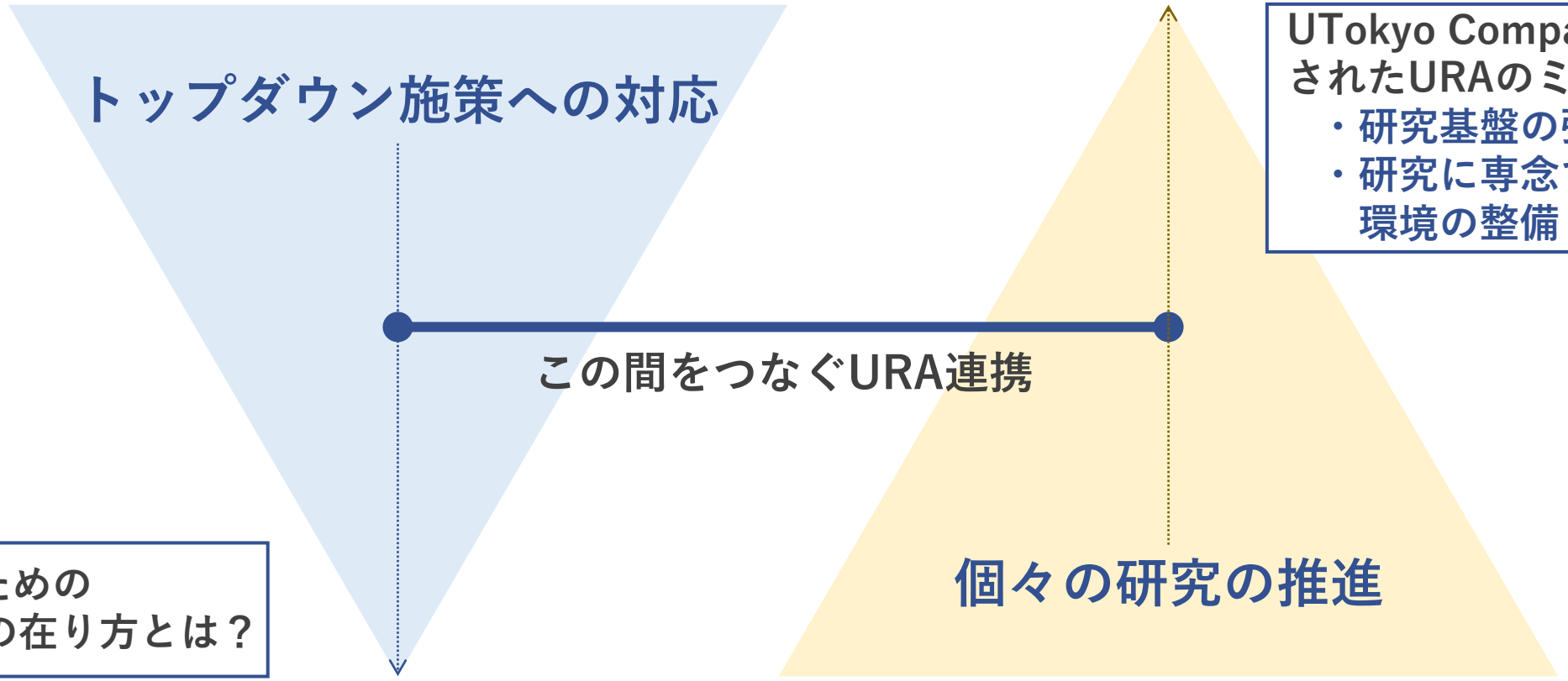
② 認定を前提としない、学内の研究推進人材群への伸展

（ボトムアップのさらなる強化）

- URA研修等を入口として、学内の研究推進人材コミュニティを醸成
- 効率的な情報共有・課題解決

東京大学URAネットワークの伸展：URA連携による全学研究力強化へ

本学における研究へのURAの効果的な参画に向けて本部と部局が連携し、戦略的・計画的なURAの活用に向けた組織体制を構築する。



UTokyo Compassに記載されたURAのミッション
- 研究基盤の強化
- 研究に専念できる環境の整備

対応するための
URA制度の在り方とは？

東京大学URAネットワークの伸展：URAに閉じない知の集積・共有へ

UTokyo Research Administration UTRA Commons